東愛知　2012.5.20（日）

米軍基地移設は日本の問題

政治学者のラミスさん講演

愛大豊橋校舎で

「基地と憲法」をテーマにした、政治学者ダグラス・ラミスさんの講演が19日、愛知大学豊橋キャンパス記念会館であり、ラミスさんは「米軍基地移設問題は沖縄県だけでなく日本の問題」と本質的な理解を求めた。

金子勝氏（立正大学法学部教授）の第13回「憲法講座」で、同実行委員会、愛知大学九条の会主催のイベント。約200人の市民らが参加し、米軍基地問題を中心に憲法や国のあり方など考えた。

ラミスさんは、1960年、海兵隊員として沖縄に駐留。61年の除隊後は関西に住みながら〝べ平連〟の一員として平和運動に取り組む。80年、津田塾大教授、2000年からは沖縄国際大非常勤講師を務める傍ら、執筆や講演活動を行う。現在、沖縄在住。

講演で、ラミスさんは「沖縄では十数年前まで『米軍基地の県外移設』はタブーだったが、今は賛成・反対にしろ考えなければいけない議論のど真ん中にきている」と強調。

その上で「沖縄は言ってみればアメリカと日本から二重の植民地的な扱いを受けている。日本全体の問題として米軍基地移設に対して真剣にどう応えるかだ」と力を込めた。

一方、沖縄県が戦略的な防衛の要とされている点について、「仮想敵を北朝鮮や中国とするならば地理的には九州であり違う。あくまでも政治的な要」と指摘。

それらを踏まえ「ほとんどの人が安保条約も憲法9条も欲しいと思っている。この矛盾に沖縄（要石）を当てはめるとアーチ橋のように倒れない。これが今の状態」と解説した。

また、同日は金子氏との対談もあり、金子氏は「なぜ基地移設が盛り上がらないのか」と質問。ラミスさんは「自分の家の近くに来て欲しくないということ。まさに植民地的な発想であり、その点、沖縄県民が差別だと感じている」と説明した。

そこで「米軍基地移設問題の議論が盛り上がらない本当の動機を自分の心に聞いて欲しい」とも訴えた。

（杉森秀房）

講演するラミスさん＝愛知大学豊橋キャンパスで